

伝統を守るために

一年 H・A・

皆さんはお祭りという何を思い浮かべますか。

私の住んでいる和納では、夏に十五夜祭りが行われます。屋台は多くはありませんが、たくさんの人でにぎわいます。珍しい草花火も楽しみの一つです。

そんな祭りを盛り上げるのが拍子方です。拍子方とは、祭りで神楽舞をしたり、しの笛や太鼓などを演奏したりする団体のことです。練習は、祭りが近づくときほとんど毎日して、本番に向けてがんばっています。父も拍子方に入っていて、私はその姿を見たり演奏

を聴いたりするのが楽しみです。

夏のある日、父に

「今から拍子方の練習があるけど来る？」

と誘われたのがきっかけで、弟と練習に参加するようになりました。そこで私が驚いたことは二つあります。

一つ目はほら貝の音です。

「ブオブオブオブー。」

という音の言葉で言うとおの部分は、ほら貝には無い音です。父にすすめられ、私は今ほら貝を練習しています。しかしとても高い音なので、マウスピースに入れる息の量、スピードの調節が難しく、たまにしか鳴りません。祭りでよく聞く音も、たくさん練習し

てきれいな音を響かせているということを知り驚きました。

二つ目は神楽についてです。神楽の中には二人の男性が入り、その中で踊ります。二人の息がぴったり合い、指の先までしなやかに動かす演技は、生きていくようで、とても迫力があります。

神楽の歯がかぶかぶ動くのを見たことがありますか。神楽の歯は、頭の中の木の棒をかむことで動かします。私はそのことを知り、とても驚きました。このように地域の、昔からある伝統のことを知るたびに誇らしい気持ちになりました。

現在拍子方は十六人で、女の方は五人です。

若い人も入ってきましたが、それでも人数が少ないと感じます。和納には棒つかい、花火方、拍子方の三つの無形文化財があります。ですが、人数が少なく、伝統が途絶えてしまう危険性があります。

私は地域の伝統を引き継ぎ、次の世代に伝えていくことが、大切なのではないかと思います。一度途絶えた伝統は復活させるのが難しいと思います。だから、私たち若い世代が地域の行事に参加し、伝統を引き継いでいきたいです。